

ゆきとどいた教育をめざす徳島県連絡会 様

公開質問状への回答

候補者 (古田元則)

質問1 県独自の少人数学級実施に伴う教員を県が確保しなかったため、教育現場の多忙化が深刻化し、教育に影響が出ていることについての見解

学級数を増せば教員を増やすのは当たり前です。子ども一人ひとりの尊厳を尊重し、子どもの声に丁寧に応える教育をすすめるための少人数学級であり、教員の多忙化解消に同時に取り組まなければ実現できません。必要な教員を増やさなかったのは、行政による子どもと教員への人権侵害です。

最優先で教員の多忙化解消のために、教員増に取り組めます。

質問2 教員の多忙化を改善し、ゆきとどいた教育を実現するために、相当数の県費単独負担教員を確保するか否か

相当数の県費単独負担教員を増やします。

ため込み金（財政調整基金）1000億円の活用や、新ホールにともなう新駅建設、徳島化製への補助金などムダな事業を中止し、教育と福祉のために財源をまわし実現します。

質問3 未配置・遅配置・不完全な配置の多発で、子どもたちが本来受けるべき授業等を受けることができていないことについての見解

行政の責任は、ゆきとどいた教育のための環境整備です。必要で十分な教員を適正に配置しないなど許されません。

早急に解決します。

質問4 未配置・遅配置問題の解決のために、正式採用教員を大幅に増やし、臨時教員の待遇改善を、緊急かつ強力に進めるか否か

子ども一人ひとりとじっくり向き合える教育をすすめるために教員の処遇改善は欠かせません。正規教員が当たり前になるように正式採用教員を大幅に増やし、臨時教員の処遇改善を早急に強力に進めます。